

齡五十の志

平成25年 12月25日 午前9時45分

私個人は、内的には、神仏を尊び、摂理・道理に学び、内なる佛を
見出し、その佛の声を聴き、良心として発露して、この世を
生き抜く。

対社会的には、「宗教の言葉」は内に秘め、近い将来「憲法の
言葉」で、世に立とう。

法哲学の基礎を「祈りが。信心が。宗教哲学が礎石として、
見えざる根として在る」とは、西洋近代法成立の過程からも、

自明の理である。当り前である。

平成24年の12月末の仕事納めを以って、生まれ故郷の

市で、足かけ十四年間に、自営してきた鍼灸院を閉めた。

平成24年2月から、およそ10カ月間に亘る筆舌に尽せぬ
生命を削る体験が、私を佛道修行にかりたてた。

満49才の冬であった。方丈記の鴨長明の真似をして、
齡五十の春を目前に、神佛の道に赴いた。

今、岳の約500m地点の独り居の住まいでこれを書いている。

現代社会で困難に喘ぐ人を助けよう。

年間3万人を超える自殺者が出るという、何ということだ。

病気を苦にした人。経済的困窮に陥った人。

人間関係に疲れ果て、お門違いな言葉に苦しむ人。

失敗の原因を作った自らを責め、生きる意欲を失いつつある人。

正しく在ろうとして折れ、優しさにつけ込まれ傷つき、

正直故に嘲られ、貧しいが故に堪え忍び、

温かな人間愛を知らぬが故に、歪み、

遂には許された幸せを求めることさえも諦めた。

そんな生き地獄に喘ぐ人達の、一人一人の力になろう。

その人、その人の具体的な生活問題を解く社会事業家に

なるのだ。生を受け、死を迎えるまで人は誰しも、ライフサイクル・ライフ

ステージにおいて解くべき問題に見舞われ続ける。成長課題・

克服すべき問題を乗り越えてゆかぬは生きてゆけないという

ことは普遍的である。同時に、一人一人に現われている

問題は、個人を反映して特異的である。

私にとっては、「神佛を求めるとは、「真・善・美を求めると同根・

同義語である。スピリットを告白するからには、元より、今世で

悟り、六道の輪廻の枠を超え往かん」と欲しているのである。

今世で輪廻の枠を超えられるかどうか、それは判らないので置いとく。

だが私の「齢五十の志は、間違ひ無く、菩薩の誓願である。」

第一級の菩薩の誓願である。

さて、この志を、この世で、この現実社会で実現してゆくには、

今しばらく時間と辛抱を要する。

悟りし魂の三世十方カ・一念三千の無辺・即時性は、

生身の人間には、叶わず、この世の法則の縛りを受ける。

己の志が実現するまで辛抱できた人のことを、私は、成功者

と呼びたい。

コンセプト

「志」(concept (英語) 構想されたもの、概念、観念)

- 夢 (dream)
- 理想 (ideal)
- 構想 (concept)
- 考え (idea)

には、

一、経済力・軍資金（その個々の達成目標に見合った資金）

一、実力・資格（資格が無いと、熱いだけの変な人と相手にされない。）

一、人の和・協力者（志に共鳴してくれた協力者にも都合がある。その都度、すり合せも必要。）

一、情熱・忍耐力・持続力（創業者と言われる人は、常人には測り知れぬ、狂気にも似た情熱を昇華しているものである。）

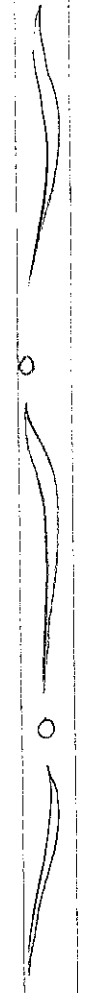
一、公正さ・冷静さ・謙虚であること。（成長し続ける人というのは、お金や社会的地位を得ても、謙虚で在り続ける人だ。）

一、何モノにも囚われない自由な心（行き詰まり・離反・小さな失敗は、つきものである。いつでも仕切り直し、一人でO(ゼロ)からやってみる。囚われの無い自由な心）

少なくともこの六つが歯車としてかみ合い動かなければ、

『志は実現しない。』

元よりその『志』なるものが神佛の意に添ったものでなくてはならない。



さて、肩の力を抜いて、具体的にしめくくる。

どうやら私は、ある臓器のガンの疑いが濃厚になった。

／時間前に、主治医から再検査の結果、腫瘍マーカーの値

が一月の服薬後なお基準値を超えているとのこと。

総合病院で、専門医の細胞診を受けることとなった。
30%の確率でガンであるという。

もしもガンだった場合、「朝勤行前、毎日晩立て伏せと、腹筋を100回ずつ日課している。元気な私はガンの進行も速やかろう。」
又、「五年生存率」がうんぬんされる。

たとえ余命五年でも、

この「志」を実現させるために己を転がしてゆこう。

来春すぐその平成26年春から一年かけて

国家資格「社会福祉士」を取りにゆく。

通信か通学か、学校も決めねばならない。

一年しっかり勉強し、平成27年4月合格を

目指す。

神佛の心を持った社会事業家になって、世直しを
するのだ。それに先だて、三津二〇五番地のリフォームが

完了次第、健康道場

鍼灸院の狼煙のろしを

この世に上げる。基礎資格は鍼灸師である。(後記)細胞診の
世直しの狼煙である。
創業者結果ガンでは無かった。